

## 創刊の辞

平成19年4月、金沢星稜大学にスポーツ学科とこども学科からなる人間科学部が誕生しました。人間科学部は、人間の限りない可能性を「スポーツ」および「こども」という領域を基軸に、人間が関わるあらゆる事象を探求し、人間の能力を高める教育と研究を行ないます。それにより、金沢星稜大学人間科学部としての特色ある「スポーツ科学」及び「こども科学」という教育・研究のパラダイムを構築し、地域社会に貢献し未来を創造できる人間力溢れる人材の育成を使命としてまいります。

これら教育・研究の基盤となる機関が、「金沢星稜大学人間科学会」です。

人間科学会は、その会則第2条にある通り、広く人間に関する教育・研究を促進するとともに会員相互の啓発に努め、人間科学の振興並びにスポーツ及びこども文化の発展に寄与することを目的としています。この研究機関誌である『金沢星稜大学人間科学研究』がここに創刊されましたことは、誠に心強く喜ばしい限りです。

顧みますと、古今東西を問わず人間は尽きることの無い興味関心の源泉であり、人文・社会・自然のあらゆる領域から探求の対象で在り続けています。人間が人間を探求する行為は一見、自己言及のパラドクスを犯しているようにも思えます。人間とは何かを証明しようとするれば確かに、ゲーデルの問題を引き起こすことでしょう。現実の世界に生きる私達人間は、変化の中に生きる多元的な存在であるということに思いを致せば、人間探求の目的はその証明に在るのではなく、人間の限りない可能性の発見と多様性の理解に在ると思われまふ。そのような人間に対する探求には多元的な方法が求められます。かつて、スイスの心理学者ジャン・ピアジェが構想した「人間科学」は、人文科学、社会科学及び自然科学を総合する科学として、人間の多元的研究を行なっていこうとするものでした。

『金沢星稜大学人間科学研究』が拠って立つ人間研究の視座も、そこにあるといえるでしょう。そうして「スポーツ」と「こども」という領域に、より強い探求の焦点を当てた金沢星稜大学人間科学部の特色ある研究が、この創刊号によってまさに開始されたのです。

これから刊を重ねるごとに蓄積されていく研究成果が、人間科学部の共有財産となるのみならず、あまねくスポーツ研究者の間で、こども研究者の間で、また関連領域の研究者の間で共有財産となることを、そしてこれらの研究を礎に、新たなる人間研究のエピステーメーが築かれることを願って止みません。

2008年3月吉日

人間科学会会長 宮崎正史